



逗子海岸のバリアフリー化プロジェクト（海と日本2022）

事業報告書

2022年度

逗子海岸営業協同組合

当初よりある”ビーチエコステーション”に加え、前年企画した”プラごみ削減プロジェクト”

そして今期取得した”ブルーフラッグ”の3つの環境コンテンツを全面にアピールして、人にも自然にも優しいビーチであることを訴求した。



↑逗子海岸営業協同組合TOPページ



ブルーフラッグは海辺の国際認証です

「Blue Flag」とは、デンマークに本部がある国際NGO FEE（国際環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際認証制度で、1985年にフランスで誕生し、2022年5月現在、世界48か国、5,042か所が取得しています。ヨーロッパでは広く認知されているブルーフラッグ制度。逗子海岸は今年度日本国内で6番目の認証を受けました。

ブルーフラッグの認証を受けるには、



上記の4分野で33項目の認証基準を達成する必要があります。

これから毎年の審査を通じて、ビーチにおける持続可能な発展を目指していきます。



取得するメリットとは？

● 海の課題を共有できる

33項目の基準を達成するために、ビーチの抱える課題が明確になります。

これらの課題を行政、事業者、住民間で共有することで具体的な改善策に取り組めるようになります。

● 地元の海を誇りに思う

ブルーフラッグは取得した時が始まり。これから維持していくために行政、事業者、市民が地元の海的环境について理解を深めていくことで、海やまちに対する愛着と誇りを持つようになります。

● 持続可能な街づくり

ブルーフラッグの基準を達成するためには「環境・経済・社会」の調和が必要です。ブルーフラッグの目的はSDGsの理念と一致していることから、「持続可能なまちづくり」を実現することにつながります。



逗子海岸での取り組み

● バリアフリービーチ

逗子海岸は車椅子の方でもご来場いただけます。海岸の入り口は段差がなく、水陸両用の車椅子の貸し出しを行なっている他、バリアフリーマットを常設します。また海の家への入り口に可動式のスロープを設置します。

● プラスチックフリーを目指して

逗子海岸の海の家では2019年よりプラスチックストローの使用を禁止しました。その翌年2020年は新型コロナの影響で海水浴場は開設されませんでした。プラカップの使用を禁止しています。昨年度はオリジナルの啓発メッセージ付きリユースカップを各店に配布し、プラカップの代わりに活用しています。詳しくは[プラごみ削減プロジェクトページ](#)をご覧ください。

● ビーチクリーン

海の家各店が当番制でビーチクリーン、また近隣清掃を行なっています。また年間を通して、様々な海浜事業者、ボランティア団体と連携してビーチクリーン活動に従事しています。

逗子市経済観光課

一般社団法人
日本ブルーフラッグ協会

ブルーフラッグページ：

今年度取得した環境認証ブルーフラッグの紹介ページにて、当組合の取り組みを説明した

車椅子でも海水浴が楽しめるよう、砂浜にバリアフリーマットを敷いた。

またどなたでも海の家で更衣休憩ができるように、店舗入り口用の移動スロープを組合で用意し、活用した。



海開き式ではブルーフラッグの掲揚と併せて、車いす利用者の方に、実際にバリアフリーマットを走行していただくデモンストレーションを行なった

